

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

1 事業実施主体名：旭製粉株式会社

2 事業実施期間：平成28年～令和2年

3 補助額（事業費）：52,211,000円（112,775,760円）

4 事業内容

- ・製粉工場の一部設置機械等の廃棄・撤去し、プレミックス生産ラインを増強

5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的な内容 上段は実施要領上の成果目標 下段（ ）は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年（平成28年）	令和2年（目標値）	達成率
製造コストを5%以上削減 (7.2%削減)	8,191円/トン	7,586円/トン (7,598円/トン)	7.4%削減 (103%)
稼働率を5ポイント以上増加 (21ポイント増加)	53%	56.1% (74%)	3.1ポイント増加 (15%)
国内産麦の引取量増加 (152トン増加)	3,997トン	4,570トン (4,149トン)	573トン増加 (377%)
販売金額又は販売数量の5%以上の増加 (販売数量の30%増加)	4,287トン	6,472トン (5,592トン)	51. %増加 (170%)

6 評価

- A：目標以上の成果を達成  
B：おおむね目標どおりの成果を達成  
C：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農産局長の総合所見

新型コロナウイルスの影響を受け、小麦粉販売競争及び消費低迷のため、事業計画時より取引先の販売量が減少したことから、稼働率の増加について、実施要領に基づく成果目標を達成することができなかった。目標達成に向け必要な改善計画の作成を求ることとする。

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

1 事業実施主体名：沖縄製粉株式会社

2 事業実施期間：平成28年～令和2年

3 補助額（事業費）：61,493,397円（133,905,737円）

4 事業内容

- ・製粉工場の一部設備の廃棄・撤去による能力削減及び稼働率の向上
- ・乾麺（手延麺）設備の刷新による生産効率、歩留の向上及び新製品の開発の実施
- ・ミックス設備の刷新による生産効率の向上及び新製品の開発の実施

5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的な内容 上段は実施要領上の成果目標 下段（ ）は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年	令和2年 (目標値)	達成率
製造コストを5%以上削減 (5.0%削減)	7,011円/トン	8,532円/トン (6,660円/トン)	21.7%増加 (0%)
稼働率を5ポイント以上増加 (19.5ポイント増加)	51.3%	54.2% (70.8%)	2.9ポイント増加 (15%)
国内産麦の引取量増加 (15トン増加)	0トン	0トン (15トン)	0トン (0%)
販売金額又は販売数量の5%以上の増加 (販売数量の5%増加)	20,993トン	18,286トン (22,043トン)	12.9%減少 (0%)

6 評価

- A：目標以上の成果を達成  
B：おおむね目標どおりの成果を達成  
 C：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農産局長の総合所見

新型コロナウイルスの影響を受け、顧客である外食産業向け、観光産業向けの製品販売が大幅に減少したため、事業計画時より生産数量が大きく減少したことから、全ての項目について、実施要領に基づく成果目標を達成することができなかった。目標達成に向け必要な改善計画の作成を求ることとする。

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

1 事業実施主体名：株式会社勅使川原精麦所

2 事業実施期間：平成27年～令和2年

3 補助額（事業費）：198,000,000円（427,680,000円）

4 事業内容

・全国精麦工業協同組合連合会傘下の複数の精麦工場施設を集約するため、長野県の精麦工場（株式会社イトウ精麦）、栃木県の精麦製造設備（株式会社勅使川原精麦所）を廃止し、新たな工場を新設（株式会社勅使川原精麦所）

5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的な内容 上段は実施要領上の成果目標 下段（ ）は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年（平成26年）	令和2年（目標値）	達成率
製造コストを5%以上削減 (34%削減)	25,000円/トン	29,816円/トン (16,500円/トン)	19.3%増加 (0%)
稼働率を5ポイント以上増加 (22ポイント増加)	16%	46% (38.0%)	30ポイント増加 (136%)
国内産麦の引取量増加 (869トン増加)	531トン	1,191トン (1,400トン)	660トン増加 (76%)

6 評価

A：目標以上の成果を達成

B：おおむね目標どおりの成果を達成

（C）：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農産局長の総合所見

工場全体の製造量が減少し、精麦製品の割合が多くなり製造コストが増加したことから、製造コストの削減について、実施要領に基づく成果目標を達成することができなかった。目標達成に向け必要な改善計画の作成を求ることとする。

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

1 事業実施主体名：永倉精麦株式会社

2 事業実施期間：平成27年～令和2年

3 補助額（事業費）：7,515,000円（16,232,400円）

4 事業内容

- ・操業度の向上及び製造コストの縮小のため、精麦工場等の一部の施設等の廃棄・撤去

5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的な内容 上段は実施要領上の成果目標 下段（ ）は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年（平成26年）	令和2年（目標値）	達成率
製造コストを5%以上削減 (5%削減)	212,175円/トン	285,382円/トン (201,565円/トン)	34.5%増加 (0%)
稼働率を5ポイント以上増加 (5ポイント増加)	7.7%	7.2% (12.7%)	0.5ポイント減少 (0%)
国内産麦の引取量増加 (355トン増加)	2,245トン	2,179トン (2,600トン)	66トン減少 (0%)

6 評価

- A：目標以上の成果を達成  
B：おおむね目標どおりの成果を達成  
C：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農産局長の総合所見

新型コロナウィルスの影響を受け、学校給食向け製品供給が数か月にわたり停止、在宅勤務が増えるなか企業食堂の休業のため、事業計画時より業務用製品出荷が減少したことから、全ての項目について、実施要領に基づく成果目標を達成することができなかった。目標達成に向け必要な改善計画の作成を求ることとする。

## 別記様式第6号

### 加工施設再編等緊急対策事業のうち乳業工場機能強化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：よつ葉乳業株式会社
- 2 事業実施期間：平成28年度～令和元年度
- 3 補助額（事業費）：182,907,223円（404,249,113円）

#### 4 事業内容

ハード系熟成チーズのみからソフト系チーズ等も加える製造転換に必要なチーズ前処理設備の廃棄及び整備を実施した。  
製造転換にあたり、一度にハード系熟成チーズの製造を中止できないことから、当面はハード系熟成チーズ・ソフト系チーズ等を製造しつつ、徐々にソフト系チーズ等の製造量を増加させる必要がある。しかしながら、複数品種の製造を行う場合、中間洗浄により製造能力が低下する等、効率的な製造に支障をきたすおそれがある。このため、具体的には既存の製造設備の一部を廃棄するとともに、複数品種の効率的な製造が可能となるように十分な能力を有する設備として殺菌機、UF膜濃縮設備、標準化装置等を整備した。

#### 5 成果目標の達成状況

対象工場における製造ライン転換後の品目の年間製造量（トン）

ライン転換後 の品目	現況値	目標値	実績	備考
	平成28年	令和元年度	令和2年度	
ソフト系 チーズ	481 (0)	981 (500)	1,047 (566)	成果目標は増加量で設定したため括弧内は増加量とした。

#### 6 評価

- Ⓐ：目標以上の成果を達成  
Ⓑ：おおむね目標どおりの成果を達成  
Ⓒ：目標未達

注：Ⓐ～Ⓒのいずれかに○を付けること。

#### 7 農政局長等の総合所見

増産量の目標値500トン/年に対し、実績値は566トン/年となり、目標を13%上回ったことから目標以上の成果を達成したと判断。

別記様式第6号

加工施設再編等緊急対策事業のうち乳業工場機能強化事業の事業評価票

1 事業実施主体名：よつ葉乳業株式会社

2 事業実施期間：平成29年度～令和2年度

3 補助額（事業費）：333,273,903円（783,903,962円）

4 事業内容

輸入品との競合が見込まれ鶴ハード系チーズのうちシュレッドタイプの生産から撤退し、今後の需要増加が見込まれるはつ酵乳の生産体制を整備する。  
(整備内容)  
はつ酵乳生産設備  
(廃棄内容)  
ハード系チーズ（シュレッドタイプ）生産設備

5 成果目標の達成状況

対象工場における製造ライン転換後の品目の年間製造量（トン）

ライン転換後 の品目	現況値	目標値	実績	備考
	平成27年	令和2年度	令和2年度	
はつ酵乳	980	5,370	3,204	

6 評価

- A：目標以上の成果を達成  
B：おおむね目標どおりの成果を達成  
C：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農政局長等の総合所見

はつ酵乳ブームを見越して設定した製造量の目標値5,370トン／年に対し、実績値は3,204トン／年となり目標を下回ったため、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。